

表 2-4-1 設置者別高等学校生徒占有率

(単位：%)

区分 \ 年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
公立高等学校	85.47	85.58	85.32	84.89	83.73	82.37	81.25	81.05	80.92	81.45	82.12
私立高等学校	14.53	14.42	14.68	15.11	16.27	17.63	18.75	18.95	19.08	18.55	17.88

- 注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51) による。
 2. 生徒占有率=(設置者別高等学校生徒数)÷(高等学校生徒数)×100
 3. 通信制は、生徒数から除く。

一方、全国における設置者別高等学校の生徒占有率を昭和50年度においてみると、公立高等学校の生徒占有率は70.0%となっている(「我が国の教育水準」(昭50))。

従って、公立高等学校の生徒数と私立高等学校の生徒数との比は、昭和50年度において、全国が70対30、本県がほぼ81対19となっているが、昭和50年度以降、本県においては公立高等学校への志望志向がわずかながら強まる傾向にあるといえる。

次に、課程別生徒数の状況を昭和41年度の生徒数を100とした指数によって、昭和46年度、昭和51年度においてみると、全日制は昭和46年度92.1、昭和51年度92.1と昭和46年度から昭和51年度までにおいて、ほぼ横ばいとなっている。

定時制は昭和46年度65.8、昭和51年度38.4と昭和46年度から昭和51年度までにおいて、急速な減少状況を示している。

通信制は昭和46年度96.0、昭和51年度87.5と昭和46年度から昭和51年度までにおいて、緩慢な減少状況を示している(表2-4-2)。

ここで、特に、通信制課程の生徒状況をみると、年度内入学者は、昭和40年度から昭和45年度まで増加状況にあって、それ以後、昭和50年度まで減少状況にあったと想定される。

また、卒業者は、昭和40年度から昭和45年度まで増加状況にあって、それ以後、昭和50年度までほぼ横ばいの状況にあったと想定され、退学者は最近年次になって減少傾向を示している(表2-4-3)。

通信制課程における年度内入学者の年齢別構成比を昭和48年度から昭和50年度までにおいてみると、15歳の生徒の占める割合が逐年下降して昭和50年度33.69%となっている。

これは、通信制課程への入学者の年齢が今後高くなっていく傾向にあることを示すものであろう(図2-4-8)

表 2-4-2 課程別生徒数

(単位：人)

区分 \ 年度	41	46	51
全 日 制	97,640	89,894 (92.1)	89,904 (92.1)
定 時 制	9,799	6,450 (65.8)	3,766 (38.4)
通 信 制	2,403	2,306 (96.0)	2,102 (87.5)

- 注：1. 「学校統計要覧」(昭41, 昭46, 昭51) による。
 2. 生徒数は、公立、私立の合計である。
 3. かっこ内の数値は、昭和41年度を100とした指数である。

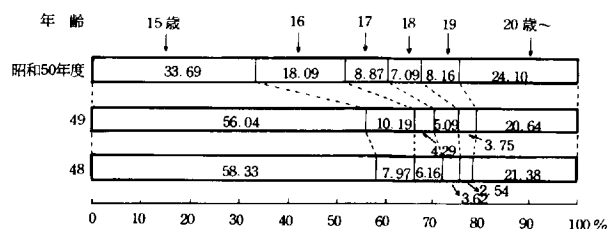
表 2-4-3 通信制課程の年度内入学者・卒業者・退学者

(単位：人)

区分 \ 年度	40	45	50
入 学 者	420	726	282
卒 業 者	32	173	177
退 学 者	54	105	8

- 注：1. 「学校統計要覧」(昭51) による。
 2. 生徒数は、公立、私立の合計である。

図 2-4-8 通信制課程年度別入学者の年齢別構成比



- 注：1. 「総務課調査」(昭51) による。
 2. 年齢別構成比=(当該年齢入学者数)÷(入学者総数)×100